

## 大学生からのメッセージ

### 「就職活動の意味とは」

千葉大学 園芸学部 食料資源経済学科 3年 渡邊ゆき乃

私は今、来年から大学4年生になる大学3年生の春休みを過ごしています。最近忙しいことといえばもっぱら「就職活動」です。もう就職活動という言葉が嫌いになりそうなほどです。学部生で卒業する多くの学生が同じく就職活動にいそしんでいることと思います。

近年の動向として就職活動の早期化が顕著だといわれています。大学1・2年生の頃からインターンや業界研究、自己分析を意識して生活し三年生になると精力的に活動し早い人は春休みになる前に就職活動を終えていくそうです。いち早く就職活動をはじめいち早く有力情報を掴む。まさに情報戦といえます。そしてこの時期の大学三年生と話をすると何故か就職活動の話ばかりになってしまいます。就職活動への不安から来る愚痴が止まらなくなってしまう時もあります。それは面接対策やSPIテストさらにはエントリーシート作成など誰もが一度はつまづくポイントがいくつもあるからです。

数か月就職活動をしてみて分かったことがあります。私たちは就職活動という門が開いたら突然社会人になるわけではなく、就職活動という道を歩くことでだんだんと社会人になっていくのではないかと思います。どうしても就職活動では、面接の不合格やエントリーシートの不合格などそこを突破できるか突破できないかで判断してしまいます。すべてを突破したら次の4月に突然社会人になるのだと思いがちです。しかし、面接やその他の関門は正解があってそれができるかできないのかではなく、私たち就職活動生に自分のキャリアや将来を考えさせてくれている機会なのではないかと思います。

例えば、面接では「あなたの強みと弱みそしてその理由を教えてください。」という質問が代表的によくある質問だと思います。世の中には受けのいい回答集なるものもありますが、この質問はそのひとの能力を聞いているのではなく自分をよく理解しているかを問うているのではないのでしょうか。この質問に対策する過程で私たちは自分の特徴を深く見つめ分析しそれをどう生かせるのか考えます。弱みは自分に何が足りないか客観的に考える力を私たちに求めています。自分の弱点を見つけそれを解決しようとする力は社会で生きていくうえで大変重要だと思います。そして会社の志望動機を掘り下げられることも同様にこれから何十年も過ごす可能性のある企業をどれほど深く、真剣に理解し選んでいるかを見ているのではないのでしょうか。さらには、社会人としてメールのやり取りをすること、同時進行で企業の選考に進むようにマルチタスクに対する耐性などブレ社会人といえる行動が求められます。

本気で就職活動に取り組む数か月の間に私たちが就職活動に真剣に取り組むことの本当の価値に気が付くことは難しいかもしれません。これも私がほんの少しだけ就職活動に触れてみた感想に過ぎないわけです。その意味を考えようとしても実際に私たちは来年の春に手に職があるのかがかかっているわけですからすべての結果を経験だと捉えるのは難しい時もあります。それでも就職活動に辛くなった時は今回述べたような就職活動の意味を意識したいと思います。

## □ 徳島堰（山梨県韮崎市、南アルプス市）



旧甲州街道沿いの徳島堰水路

旧甲州街道を甲府から韮崎を過ぎると、街道は釜無川の右岸側へと進み水路と出逢います。街道の山側に流れるこの水路が徳島堰水路です。徳島堰の歴史は古く、350年以上前の江戸時代初期に遡り、最初に手がけた江戸の商人、徳島兵左衛門にその名は由来します。

水が集まる窪みもない急流として知られる釜無川に築かれた取水堰に端を発し、韮崎市の円野から釜無川右岸の等高線沿いに設けられた水路は、御勅使川を横断し南アルプス市の曲輪田新田に至ります。徳島堰は戦後の国営土地改良事業などで現在の姿に整備されてきましたが、水路は当初の線形を維持し、農業用水の供給のみならず、地域の生活や防災などにも不可欠で、徳島堰はバリバリの現役です。



徳島堰頭首工



旧頭首工



武田八幡宮

徳島堰の頭首工から水路沿線一帯は、甲斐武田氏の発祥と伝えられる武田氏ゆかりの地であることも見逃せません。釜無川の対岸に新府城跡を望み、水路の中ほどに位置する武田氏の氏神である武田八幡宮はお勧めの立ち寄りスポットです。



韮崎大村記念公園

当地はノーベル賞を受賞された大村智博士の出身地でもあります。韮崎大村記念公園が徳島堰水路の右岸側に整備され、美術館、白山温泉、そば処のほか、博士の生家が交流施設として整備され提供されています。



徳島堰水路での発電施設

水路沿いには田園の原風景が残り、地域の一部として生き続けている徳島堰の魅力に心を引かれ、幾度となく訪れたくなります。

# 農業土木技術—プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術-プロの仕事」。今回は令和6年能登半島地震により被災した農業用パイプラインの復旧事例をご紹介します。

## 1.地区の概要

被災した地区は、富山県の西側に位置する氷見市です。3,000ha以上の農地にパイプラインで農業用水を供給していました。

## 2.災害状況

特に被災が多かった路線は、南条幹線水路で静水圧100m以上の高圧パイプラインでした。パイプラインは農地や道路下に埋設されており、地震により継ぎ手が離脱して漏水が生じて地面が陥没している状態でした。



## 3.早急な応急復旧

営農の再開に向け、パイプラインの通水開始を行うために被災状況調査・設計と応急対策工事を行いました。管種はダクタイル鋳鉄管で写真「管路離脱状況」に示すように継ぎ手部分が離脱して漏水している状態でした。

## 4.応急復旧工法

①離脱した既設管の寸法を計測し、②その寸法に合わせて新設管を現地で切断し設置しました。③新管設置後は上下流の継目に継輪を設置して接続し、④管が挿入されたことを確認してフランジ部分をボルト接合して完了です。応急復旧が無事完了して営農再開に間に合いました。

このような災害時の対応も農業土木技術者にとって重要な仕事になっています。



## 「農業農村を応援する大学生サークル」の活動紹介

### ■「東京大学東大むら塾」の活動紹介

私たちは「農業×地域おこしでむらの未来を変える」をコンセプトに、千葉県富津市や福島県飯舘村、北海道栗山町などで活動しています。今回は千葉県富津市で行った、12月から1月にかけての活動の一部について紹介します。



まずは、畑での農作業についてです。私たちは地元の農家の方の協力をいただきながら一年を通してさまざまな野菜を栽培しています。12月にはとても立派な大根や白菜、ラディッシュなどが収穫できました(写真左二枚)。また、1月の作業においてほうれん草やそら豆、小ねぎの栽培を開始しました。これから成長していく様子を見るのが楽しみです。

次に、地域交流の活動についてです。近くのお寺では、子供たちが自習や交流を行う寺子屋が普段から開催されており、私たちも富津市を訪問した際にそのお手伝いをさせていただいています。12月にはそちらのお寺の住職さんご夫婦と協力し、特別イベントを企画しました。普段は学習支援がメインですが、この日は子供たちと様々なレクリエーションをし、私たちが栽培した小麦粉と米粉を使ったパン、ピザ、クッキーと一緒に作りました(写真右、右下)。その後、住職さんご夫婦が準備してくださった料理も併せていただきながら、子供たちとたくさんお話をして楽しみました。いつもとは違う形で交流することができ、子供たちとの距離がぐっと縮まった気がします。



東大むら塾は今年で10周年を迎えました。これからも、先輩方が地域で築き上げてきた関係性を大切にしつつ、農作業や地域交流を含めて、自分たちにできることややりたいことに取り組んでいきたいと考えています。

## 「農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

□日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

[発行・お問合せ先等] 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324 Mail:[nakazato@groundwork.or.jp](mailto:nakazato@groundwork.or.jp)

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。